

# 6年生の 交通安全



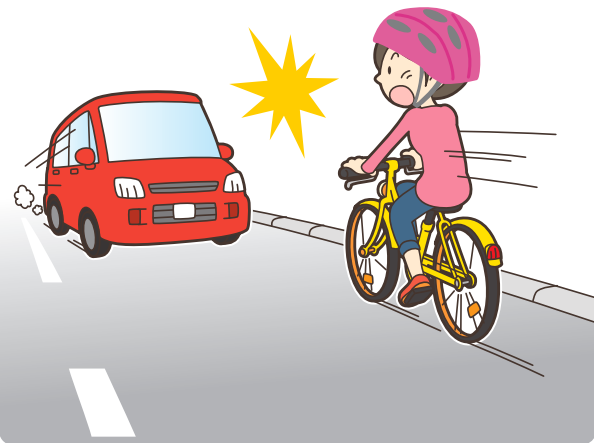
主なテーマ

自動車の危険な  
特性を理解する

# ルールを守らない自転車が問題になっています！①

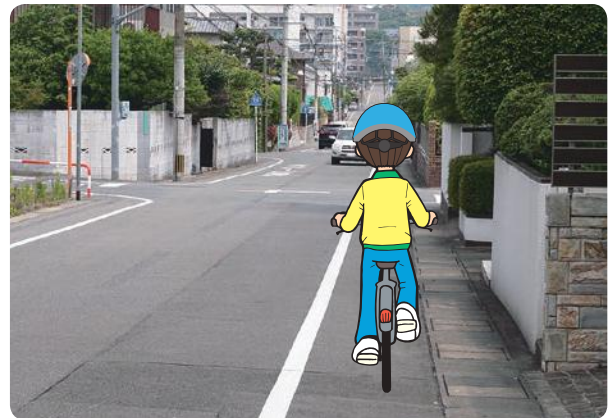
- 運転めん許がなくても乗れる自転車はとても便利な乗り物ですが、最近、交通ルールを守らない自転車が、社会の大きな問題になっています。
- 実は、大人になって交通ルールを守らなかった場合には、お金を支はらう(これを「ばっ金」や「<sup>かりよう</sup>料」といいます)か、けい務所に入れられる(これを「こう禁けい」といいます)ことがあります。※令和7年6月1日から「<sup>ちよう</sup>役」が「こう禁けい」に変わります。
- 近いしよ来、大人になるみなさんも、今のうちに、**自転車で交通ルールを守らなかったときのばっ金やこう禁けいの重さを、しっかり理解**しておきましょう。

## 1 道路の右側を通った…



3か月以下のこう禁けい  
または5万円以下のばっ金

## 2 道路の右側にある路側帯を通った…



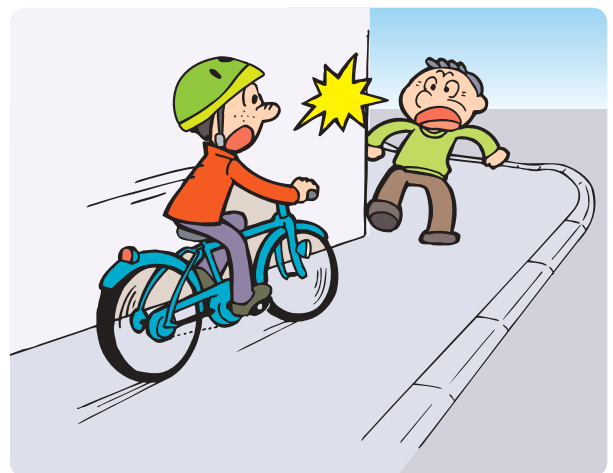
3か月以下のこう禁けい  
または5万円以下のばっ金

## 3 路側帯を歩いているとき、歩行者のじゃまをした…



2万円以下のばっ金または料

## 4 歩道を歩いているとき、歩行者のじゃまをした…



2万円以下のばっ金または料

# ルールを守らない自転車が問題になっています! ②

## 自転車で人にけがをさせたときの損害ばいしょう例

### 歩行者との事故

■ ペットボトルをかた手にスピードを落とさないまま坂を下って交差点に入り、横断歩道をわたっていた歩行者にぶつかって死なせた。

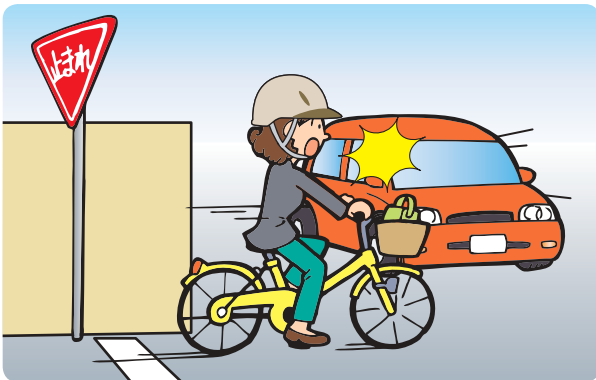
損害ばいしょう **約6800万円**

### 自転車との事故

■ 自転車横断帯のかなり手前から車道をななめ横断し、対向車線の自転車にぶつかって、治らない大けがをさせた。

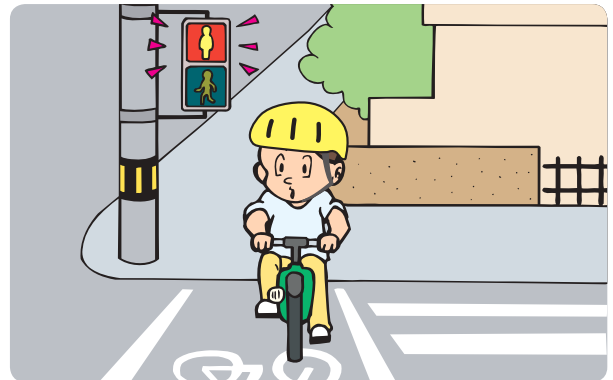
損害ばいしょう **約9300万円**

### 5 「止まれ」の標識のところで、一度止まらなかった…



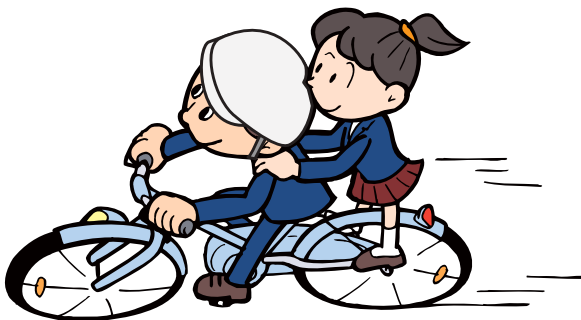
3か月以下のこう禁けい  
または5万円以下のばっ金  
(うっかりやった場合は、10万円以下のばっ金)

### 6 赤信号なのに道路をわたった…



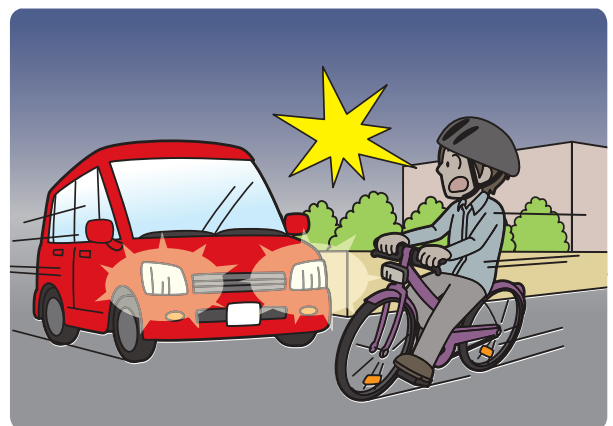
3か月以下のこう禁けい  
または5万円以下のばっ金  
(うっかりやった場合は、10万円以下のばっ金)

### 7 二人乗りをした…



2万円以下のばっ金または料料

### 8 夜、ライトをつけずに運転した…



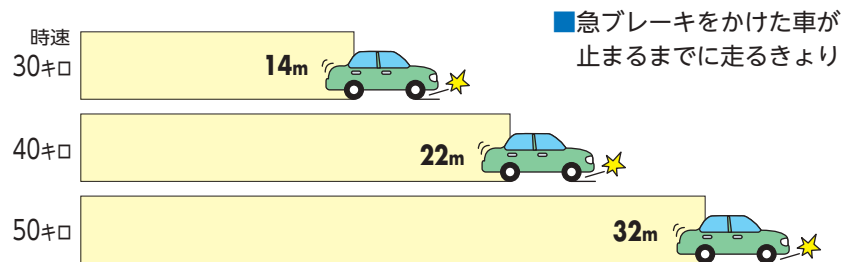
5万円以下のばっ金  
(うっかりやった場合も同じ)

# 車の特性を理解して、安全な行動をしましょう! ①

交通事故の中には、車の大きさや重さ、性能などが大きな原因となった事故もあります。そのような車のあぶない特性をしっかりと理解して、みなさんの方が交通事故を防ぐ安全な行動をすることが大切です。

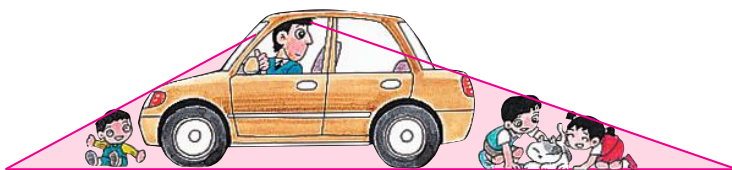
## 1 急ブレーキをかけても、すぐには止まれません…

- みなさんが自転車を運転しているとき、止まろうとして急ブレーキをかけても、すぐには止まらずに何メートルか進んでしまうのを、きっと体験したことがあるでしょう。なぜなら、動いている物は、重ければ重いほど先に進むうとする力が強いからです。
- それは自転車の何十倍も重い車も同じで、例えば歩行者が道路に飛び出してきたとき、ドライバーが「あぶない!」と思って急ブレーキをかけてもすぐに止まることはできず、時速40キロで走っている場合だと、止まるまでの間に22メートルも進みます。
- 「車は、急ブレーキをかけてもなかなか止まれない」ということをしっかりと理解し、**道路に飛び出すなどのあぶない行動は絶対にしてはなりません。**



## 2 運転席からは見えないところがたくさんあります…

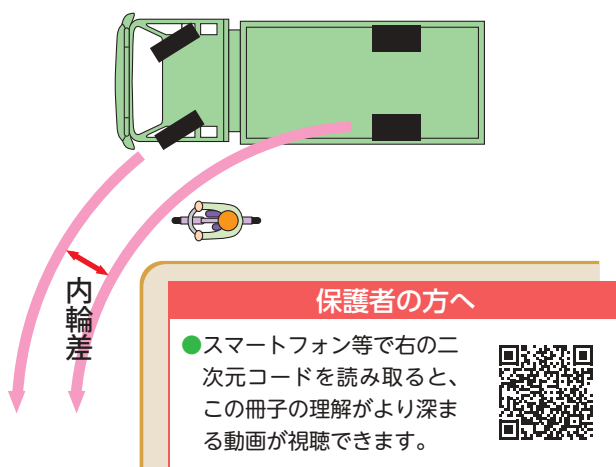
- 運転席にすわっているドライバーからは、まどから見える部分やミラーにうつっているはん囲以外は見えません。この運転席から見えない部分のことを「死角」といいます。特に車の右後ろ、左後ろは死角が大きいので、そうしたところにいる歩行者や自転車は、ドライバーに見落とされやすくなります。
- 運転席からは見えない死角があることをしっかりと理解し、歩いているときや自転車に乗っているときには、**車の死角に入らないようにしましょう。**



# 車の特性を理解して、安全な行動をしましょう! ②

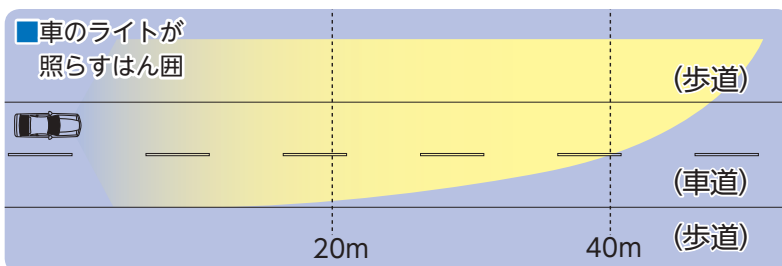
## 3 曲がるとき、車の後ろの方が内側に寄ってきます…

- 車は、前のタイヤと後ろのタイヤの位置が何メートルも離れているため、特に交差点を曲がる際には、前のタイヤが通る位置と後ろのタイヤが通る位置が大きくずれます。このことを「内輪差<sup>ないりんさ</sup>」といいます。内輪差は、車体が長ければ長いほど大きくなり、トラックでは2メートルにもなる場合があります。
- この内輪差により、車が交差点を曲がる時に、交差点の角にいる歩行者や自転車とぶつかることがありますので、**曲がる車のそばには絶対に近づかないようにしましょう。**



## 4 車のライトは、照らせるはん囲が限られています…

- 夜、車のライトを見ると、とても明るく見えますが、運転席にいるドライバーから見ると、車のライトが照らしているところはそれほど明るくありません。しかも、車の前方の少し下向きを照らしているため、ドライバーが見えているはん囲はかなり限られています。
- 夜、車のドライバーは周りがよく見えていないことをしっかり理解し、**近づいてくる車の前をわたらないようにしましょう。**



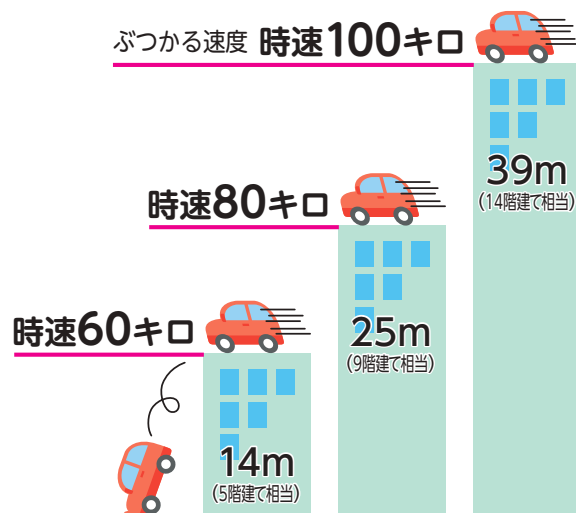
- ★車のライトをつけていても、進む方向の右側まで光が届きません。
- ★そのため、ドライバーから見て右側からわたってきた歩行者は、よく見えません。



# 車に乗ったら必ずシートベルトをしましょう!

## 交通事故のときにかかる大きな力は、手足では支えられません…

- 人が手足で支えられる重さは、大人の男の人でも体重の2~3倍ほどです。
- 一方、車が時速60キロで固いかべにぶつかった場合、車に乗っている人にかかる力は、5階建て・高さ14メートルのビルから転落したときと同じくらいで、とても人間の手足では支えられません。
- シートベルトは、交通事故のときにかかる大きな力も受け止めることができるように作られていますので、車に乗ったら必ずシートベルトをしましょう。



## 交通事故のとき、どうすればいい?

### 必ずけい察に連らくし、けが人がいれば救急車をよびましょう!

#### 交通事故にあったときは…

- 交通事故にあったときは、けがをしていなくても、必ずけい察に連らくしましょう。
- けががないように見えても、**頭などを強くぶつけたときは**、あとになって体の調子が悪くなる場合がありますので、救急車をよんで、**必ず病院でみてもらいましょう。**

#### 交通事故を起こしたときは…

- 自転車を運転していて、歩行者や他の自転車とぶつかり、だれかがけがをしたり、頭などを強くぶつかったりした場合は、近くにいる大人にも助けてもらい、すぐに救急車をよびましょう。また、けが人がいてもいなくても、必ずけい察に連らくしましょう。

けい察に連らくするときは…

**110番**へ電話!

救急車をよぶときは…

**119番**へ電話!

# 交通安全の基本を守っていますか？

## 道路を歩くとき

### ① 歩道があるときは、必ず歩道を通る



- 歩道がないときは、道路の右側の右はしに寄って歩きましょう。

### ② 道路をわたる前に、一度止まって安全を確認する



- 車が近づいてくるときは、その車が通り過ぎるまで待ちましょう。

## 自転車に乗るとき

### ① できるだけ歩道を通る



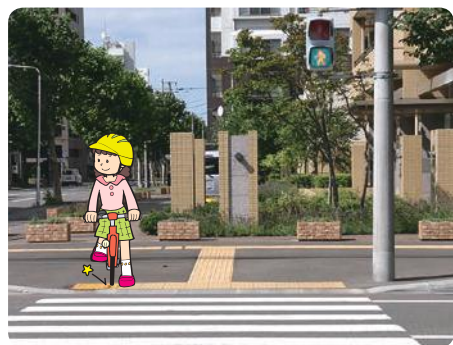
- 歩行者のじゃまになりそうなときは、一度止まって道をゆずりましょう。

### ② 「止まれ」の標識があるところでは、必ず止まって安全を確認する



- 「止まれ」の標識がないところでも、車が来ないかしっかり確かめましょう。

### ③ 青信号でも安全を確認する



- 「青信号だから大じょう夫…」と油断して、周りを見ずに交差点をわたり始めると、交差点を曲がってきた車とぶつかることがあります。

# 交通事故は、決して他人事ではありません！

毎日、**820件**ほどの交通事故が起きている…



1年間に約**2650人**、毎日**7人**ほどが死んでいる…



1年間に、国民の約**350人**に**1人**が死んだり、けがをしたりしている…



※全国・2022～2024年の平均、けい察ちょう・総務省の資料による

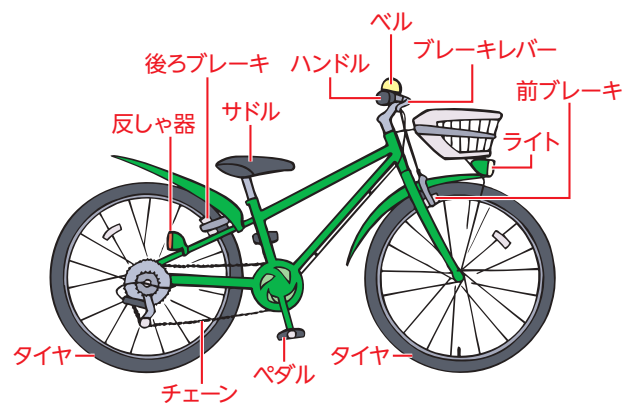
## 保護者の方へのお願い

### ■歩行中の子どもの安全を確保するために…

- 子どもが道路の安全な横断の方法をしっかりと実践できるようになるまで、繰り返し教えましょう。
- 道路で危険な行動をした場合は、その行動がなぜ危険か—を説明し、そのような行動をしないよう指導しましょう。
- 登校するときは、忘れ物に気をつけ、時間に余裕をもって早めに家を出るようにさせましょう。
- 外出するときは保護者に行き先を告げるようにさせましょう。
- あまり遠くへ行ったり、暗くなるまで遊んだりしないようにさせましょう。

### ■自転車を利用する子どもの安全を確保するために…

- 子どもに自転車を利用させるときは、子どもの体格に合った自転車を選び、乗車用ヘルメットを着用させましょう。
- 自転車を利用する前に、自転車を点検するよう指導しましょう。
- 交通ルールを守らないで自転車に乗るのは危険ということを、しっかり理解させましょう。
- 夜間はライトをつけるよう指導しましょう。
- 自転車で歩行者の通行を妨げないようにさせましょう。
- 自転車で交通事故を起こしたときや、交通事故に遭ったときに備えて、自転車保険に加入しましょう。



### ■自動車に乗せた子どもの安全を確保するために…

- 子どもが自動車に乗るときは、シートベルトを着用するか、身体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して後部座席に乗車するようにさせましょう。
- 子どもが自動車から降りるときは、周囲の安全を十分に確認してからドアを開け、道路にとび出さないように指導しましょう。